

# えん + じん

発行：  
多賀城市市民活動サポートセンター  
(たがさぼ)

第3号 【毎月1日発行】  
発行日：平成23年12月1日

えんじんは、被災地で生活している方、被災地で復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。

## ☆生活困窮者への相談窓口を開設しています☆

NPO法人EARTH(アース)&ネットは、震災前から、経済的な理由で生活にお困りの方の自立を支えるため、相談受付や生活物資の提供を行っている団体です。

今回の東日本大震災では、仮設住宅などの入居者を中心に衣類や食器、ミルク、日用品などの支援物資を届けています(平成23年10月現在93件)。大口の希望に対応した支援ではありませんが、被災者に寄り添い、細かなニーズに対応する支援を行っています。

現在は、相談を通して被災者と直接対話を重ね、被災状況や生活環境を確認してから、必要な場合は支援物資を提供しています。これからより寒さが厳しくなり、防寒具など必要でも揃えにくい物品がある場合は、お問い合わせください。

EARTH&ネットでは上記の活動を続けるために必要な生活用品や寄付、サポーター会員、ボランティアなどを募集しています。詳しくは右の連絡先にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。



他団体や企業と連携し、震災直後から緊急支援活動を行っています。

団体名：NPO法人EARTH(アース)&ネット  
住所：宮城県仙台市泉区福岡字岳山7-37  
電話：022-342-4427(担当：池田)  
FAX：022-379-2357  
受付時間：午前10時～午後4時  
HP：<http://earth-net.jimdo.com/>

※必要以上の支援物資の希望はご遠慮ください。  
※希望に合わせた物資を提供できない場合もあります。



## NPO相談窓口

被災された方の困りごとや悩みごとに対応する相談窓口を紹介します。

### ●被災者専用人権ホットライン●

被災地から来たということで、いじめや差別を受けた、性的嫌がらせを受けた、避難所などでトラブルに巻き込まれた等、どこに相談してよいかわからないという方はぜひご連絡ください。

対象：人権に関してお悩みの被災者の方

団体：NPO法人World Open Heart(ワールドオープンハート)

電話：022-398-7129 (宮城)

時間：午前9時～昼12時 午後1時～午後5時 (平日)

HP：<http://worldopenheart.com/>

### ●死別・離別の悲しみ相談ダイヤル●

大切な方との「死別・離別による悲しみ」に、少しでも寄り添うことができたなら、遺族支援に取り組む民間ボランティアが開設した電話相談です。事前にご連絡いただければ時間外でも対応いたします。

対象：大切な人を亡くされた方、大切な人が行方不明となっている方

団体：NPO法人ライフリンク

電話：0120-556-338 (フリーダイヤル 東京)

時間：午前10時～午後8時 (日曜)

午前10時～深夜0時 (毎月11日)

HP：<http://www.lifelink.or.jp/hp/shien311/>

### ●被災者相談電話●

被災者の皆様が抱える様々な不安や悩みに対し、中長期的にサポートしていきたいとの思いから電話相談窓口を開設しました。臨床心理士が対応します。つらくなる前に、気軽にお電話ください。

対象：不安を抱えた被災者の方

団体：NPO法人メンタルコミュニケーションリサーチ

電話：022-352-8950 (宮城)

時間：午前11時～午後5時 (月・火曜 祝日は除く)

HP：<http://www.mcr.npo-jp.net/>

### ●POSSE(ポッセ)労働相談●

残業代、有給休暇、解雇、労災といった労働相談や雇用保険制度、住宅制度、職業訓練、生活保護といった行政が提供している生活支援のための諸施策をご紹介します。

対象：労働や生活に関してお困りの方

団体：NPO法人POSSE(ポッセ)

電話：03-6699-9359 (東京)

時間：24時間

HP：<http://www.npoposse.jp/>

たがさぼでは、東日本大震災による被災で困りごとを抱えた方に対して、上記以外のNPOが取り組んでいる被災者支援活動の情報を提供しています。また、これからボランティア活動を始めたい方からの相談や、すでに地域づくりに取り組んでいる団体のみなさんからの相談に応じています。来館はもちろん、お電話でも受け付けております。ぜひたがさぼまでご相談ください。

## 震災復興活動紹介コーナー①

# 被災者と支援者の手をつなぐ活動

## NPO災害復興支援コーディネーター蓮笑

### ●多賀城市外からの支援の手

NPO災害復興支援コーディネーター蓮笑(れんしょう)(以下、蓮笑)の活動は、震災初期、多賀城市内での避難所支援からはじまり、被災者への希望物資調達支援や仮設住宅自治会の立ち上げ支援、運営サポートなど、多賀城市を拠点にしなが宮城県全域で復興支援活動を展開しています。

メンバーは東京や大阪など、多賀城市外から集まった個人ボランティアで結成され、震災があった約2週間後に、現在の蓮笑の前身となる災害復興支援コーディネーターサークルを立ち上げました。

きっかけは、メンバーが避難所で活動を進める中で、全国から寄せられる数多くの支援活動や支援物資が適切に配分されず、混乱していることに気づいたことでした。そこで、「自分たちが支援者と被災者の間をつなげるしくみを整えることによって、少しでも多賀城市の早期復興につなげていくことができないだろうか?」と思い、さまざまな支援をコーディネート(現地調整)する活動を開始しました。継続した支援活動を展開していくには個人としてではなく、組織として動く必要があると判断したため、団体を設立し、被災地の情報の発信と全国からの支援をつなげる活動を充実させていきました。その活動は、現在も多賀城の復興を後押ししています。

### ●ボランティア活動の潤滑油

震災直後の多賀城は電車やバスが運休し、ガソリンも給油できない状況が長く続いていたため、移動手段としてもっとも重宝されていたのは自転車でした。しかし、多くの自転車は震災により壊れてしまい、避難者の移動手段が絶たれていました。県外から自転車修理専門のボランティアが多賀城市を訪れましたが、自転車修理を行おうと思っても、避難所との調整、修理場所の確保、避難者への声かけなど、円滑に行うのは決して容易なことではありません。そこで蓮笑は、自転車修理のボランティアと避難所のパイプ役となり、避難所責任者と事前調整を行いながら、修理場所の確保、避難者への呼びかけを行っていきました。その結果、市内数カ所の避難所に出前をし、自転車を修理しながら多くの人の「足」を支えることにつながりました。

その他、八王子市(東京)の「被災地に車を届ける会」が被災者に無償で自動車を届ける支援や、伊豆の国市(静岡)の民間会社が、洗濯機を被災地の施設へ無償提供する支援など、全国からの想いを多賀城へつなげています。

このように、多くの支援の手が被災地へ差し伸べられている中、ボランティアや企業が物資や技術を揃え、支援活動を行うには、物資の保管場所や被災者のニーズの把握、輸送手段の確保など、いくつかの調整が必要です。そのため、受入体制が整っていない被災地に支援をつなげていくことは難しい場合もあります。だからこそ、蓮笑が行っている支援者と被災地を

つなげるコーディネートの活動はとても重要で、支援者の想いと被災者のニーズを上手くつなげていく潤滑油のような役割を果たしています。

### ●復興を共に歩む

蓮笑以外にも、全国から数多くの復興支援団体が多賀城で活動を展開しています。蓮笑は、各復興支援団体との間に「連携会議」を設け、企業や団体からの支援情報を共有し、多賀城に適した支援を届ける活動も行っています。

全国からつないだ支援の輪は、被災された方が、自らの力で元の生活を取り戻すためのサポートにもつながっています。「被災地がよみがえるためには、被災者が自らの力で生活を取り戻していくことが大切です。復興の未来図は、私たちが描くものではなく、地元に住んでいる方が描くものです。私たちはその未来図に向かって共に歩んで行こうと思います。」と、事務局長の田中さんは語ります。

今後、蓮笑では、コミュニティ再構築の支援、経済・流通の支援、就労支援などの事業化を足がかりに、多賀城市復興の見通しを立てています。これからも、復興に向かう被災者の想いと、それを手助けする支援者の想いを、一つにつなげていきます。



NPO災害復興支援コーディネーター蓮笑のみなさん

団体名：NPO災害復興支援コーディネーター蓮笑  
(NPO法人設立準備中)

代表：西岡 正

住所：多賀城市桜木3-7-19-B201

電話：080-7059-6436 (担当：田中)

FAX：022-309-3706 (レターケースNo.1)

E-mail：npo.rensyo@gmail.com

HP：http://jo-ji123.blogspot.com/

## 震災復興活動紹介コーナー②

# 被災地の子どもを支えるヒーロー

NPO法人HERO

### ●きっかけは一本の電話

震災による混乱が未だ続く4月、「被災地の子どもたちのためにテレビのヒーローを呼ぶことはできないか?」と、今までヒーローショーに携わってきたイベント会社のもとに一本の電話がありました。しかし、著作権や費用などの事情でこの願いは実現することはできませんでした。

そこで、呼べないのであれば自分たちで作ればよいのではないかと、そう考えたことがNPO法人HERO(ヒーロー)、そしてオリジナルヒーロー「破牙神(ばきしん)ライザー龍(りゅう)」誕生のきっかけでした。

被災地に住む多くの方は不安を抱えた日々を送っていますが、それは子どもたちも同様です。災害を目の当たりにし、連日暗いニュースが流れる中、次第に子どもたちの笑顔も少なくなっていました。そんな子どもたちに再び笑顔になってほしい、子どもたちの支えになりたい、という思いからHEROというNPOができたのです。

HEROは、宮城県内を中心に被災地や保育園、幼稚園、避難所等でショーを行っています。また、地域のイベントなどにも参加しています。

### ●プロによる「本物」のヒーロー

HEROは、子どもたちに笑顔になってもらいたいのなら、半端なものは見せられない、作るなら「本物」を作りたい、というコンセプトでヒーローショーを行っています。

中心となっているスタッフは子どもの頃からヒーローへのあこがれを持ち、仕事として携わってきた方、つまりその道の「プロ」たちです。たとえば、キャラクターを演じるのは長年ショーでスーツアクターをしていたメンバーであり、その他にも、イベント運営のプランナーやデザイナーが参加しています。中心メンバー以外にも、ネットワークを活かし、キャラクターのデザインや造形など、さまざまな方から協力を得ています。

HEROの「被災地の子どもに笑顔になってもらう」という共通の思いのもとにプロが集まり、ネットワー

クが生まれ、被災者支援に活かされています。メンバーは、普段の仕事の中で培ってきた経験やネットワークを「震災復興」という視点で考え直し、自分たちのできる活動として新たなヒーローを誕生させました。このように、ある専門性を持った人たちが技術や経験を社会のために役立てようとする時、NPOは思いをまとめるための有効な手段となります。今後、さまざまな分野での専門性を持った活動は、震災復興を進める上で大きな力となっていきます。

### ●「今」の大人から「未来」の大人へ伝えること

「破牙神ライザー龍ショー」は10月から始まり、宮城県内の幼稚園、保育園を中心に20回以上公演を行っています。このような本格的なショーが出来上がったのは、子どもたちを想う気持ちがプロたちの背中を押し続けていたからです。ショーには、子どもたちがヒーローによって支えられ、何かをがんばるきっかけとなってほしい、という願いが込められています。ショーを見ていた子どもたちには笑顔が溢れ、また、真剣にヒーローを応援する姿を見ることが出来ます。

HEROは「破牙神ライザー龍」を通して、子どもの笑顔を取り戻すと同時に「命の尊さ」「誰かを守る心の強さ」「間違いに惑わされない勇気」を伝えていきます。今、その場で笑顔になることはもちろんですが「不安な時に前向きにがんばろうと思ったこと、そしてヒーローを通して伝えられたメッセージは子どもの心に強く残る。」と、メンバーは言います。ヒーローに出会った今の子どもたちが大人になった時、その大人がまた子どもたちを支えていけるようなまちをつくっていくことも、「破牙神ライザー龍」に込められたHEROの願いなのです。

© Nonprofit Organization HERO



オリジナルヒーロー「破牙神ライザー龍」 © Nonprofit Organization HERO

「破牙神ライザー龍ショー」の依頼は、ウェブサイトの問い合わせフォームから受け付けています。被災地や県内保育園、幼稚園、避難所等では無償で公演を行っています。比較的被害の少なかった地域の子供たちも震災による不安を抱えていることに配慮し、ショーの公演は沿岸の被災地以外でも可能です。(企業等の主催のイベントは有償となります)

団体名：NPO法人HERO(ヒーロー)  
 代表：丸山 沙織  
 住所：仙台市泉区泉中央1-40-4  
 電話：022-372-4397  
 FAX：022-372-9094  
 E-mail：info@ryuproject.com  
 HP：http://ryuproject.com/

## 日常を取り戻すための音楽祭

市民音楽祭を開催する会 吉田忠彦さん



城南小学校の体育館で演奏する合奏団のみなさん

11月6日(日)午後、城南小学校の体育館は、心地良い音楽に包まれました。この日行われたのは、出演していた音楽サークルのみなさんが企画した市民音楽祭。もともとは中央公民館の事業で、文化センターを会場に日頃から音楽活動に取り組んでいるサークルの発表の場として年1回開催されてきたものです。すでに開催は30回を重ね、恒例の発表の場となっていました。しかし、震災により音楽祭は中止となり、会場にしていた文化センターも被害をうけて利用できなくなってしまったのです。

合唱団に所属し音楽祭の実行委員長を務めている吉田忠彦さんは「大人であれば今年実施しないとしても、また来年でよいかもしれない。しかし、子どもたちにとってはこの1回の貴重な発表の機会を失うことになるのではないか。」と考えました。そこで昨年参加した団体に思いを綴った手紙を出し、まずは集まって意見を交換しました。参加できないサークルもありましたが、最終的には14団体で市民による手作り音楽祭を実施することが決まったのです。

会場は1ヵ所ずつ問い合わせた探しました。開催するために必要なお金も各団体が持ち寄り、告知用のポスター、会場のレイアウトやプログラムなども自分たち

で作りました。ここ数年各部門にわかれて自分たちで音楽祭の運営を担ってきた実行委員たちのノウハウが十分に活かされることになったのです。

「これまで続けてきた行事を震災後も継続していくということは、日常を取り戻すことにもなります。行政や企業、外部の市民活動団体の支援を受けることでの復興もありますが、被災地に暮らす人自らができることをできる範囲でやることも復興につながると思うのです。」と話す吉田さん。被災地に暮らす人が動き、元気になることで、まわりの人も元気になり、さらにそれが広がっていくことで多賀城のまち全体が元気を取り戻すという、よい循環が市民音楽祭から生まれているのです。

団体名：市民音楽祭を開催する会

電話：090-1378-3608(担当：吉田)



たがさぽ紹介

## チラシラック 東日本大震災 被災者・復興支援コーナー

たがさぽ入口を入って右手にチラシラックのコーナーがあります。ここでは市民活動やNPO、ボランティアに関する情報を自由に手に取ることができます。小さなスペースですが、困りごとを解決するための情報やイベント・ボランティア活動に参加するきっかけを得る場として重要な役割を果たしています。また、団体にとっては、情報発信の場としても役立っています。

東日本大震災発生から1ヵ月の4月11日、たがさぽは仮開館を迎えました。開館後、ラックには震災復興特設コーナーを設置し、スタッフが現場などから集めた情報を支援の必要な人や支援する人に提供することができました。たとえば、障がい者への支援物資や労働・雇用に関する相談窓口、市内のチャリティイベント、ボランティア受け入れ情報などです。

現在はラックの一部をNPO・NGOによる『東日本大震災被災者・復興支援コーナー』として、「震災復興イベント」「相談会・相談窓口」「生活支援」「お役立ち情報」などのカテゴリーに分けています。

震災から間もなく9ヵ月を迎え、これからは復興に向けて、多賀城に暮らす市民同士がお互いに支え合う活動も大切になっています。新たにNPOの立ち上げに動く市民も増えている中で「自分も多賀城の復興に向けてできることはないか」と感じている方は、まず情報収集にたがさぽのラックを活用し、市内でNPOがどのような活動をしているかご覧ください。そして、気になる講座やイベントを見つけたら、足を運んでみてください。イメージしにくいNPOの活動も、実際に目で見て体験すれば、身近な存在だと気付くかもしれません。さらに現場で直接話を聞けば、NPOがどのような「想い」で活動しているか知ることができます。復興に向けた第一歩は、興味関心を行動に移すこと。そのヒントにぜひご活用ください。



チラシラックの『東日本大震災被災者・復興支援コーナー』

〇発行：多賀城市市民活動サポートセンター  
〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3  
(多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)  
TEL:022-368-7745 FAX:022-309-3706  
ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>  
スタッフブログ：<http://blog.canpan.info/tagasapo/>  
Twitter U R L：<http://twitter.com/#!/tagasapo>  
アカウント：@tagasapo  
〇編集：特定非営利活動法人せんたい・みやぎNPOセンター